



あきた人 学生柔道日本一 秋田市出身の秋山航大さん 組み手鍛え成長



今年3月に奈良県で開催された「全日本学生柔道選手権大会」の男子73kg級で優勝した東海大4年の秋山航大選手(21)の二写真。秋山航大選手は秋田市出身。強化してきた組み手を武器に、初の日本一へ駆け上がった。

今年3月に奈良県で開催された「全日本学生柔道選手権大会」の男子73kg級で優勝した東海大4年の秋山航大選手(21)の二写真。秋山航大選手は秋田市出身。強化してきた組み手を武器に、初の日本一へ駆け上がった。

極的に技を繰り出して技ありを奪い、勝利を手にした。組み手の強化が実を結んだ。昨年のこの大会(当時は全国体育系学生体重別選手権)では初戦敗退。同年秋の別の大会でも初戦で苦杯を喫した。「もう勝てないのかな」。結果が伴わず

弱気になった。そんな時に柔道部のコーチ陣から、組み手の技術を見詰め直すようアドバイスを受けた。負けた試合の映像を見直すと、組み手がワンパターンで粘り強さに欠け、不利な試合展開になっていたことに気付いた。課題が明確になり、練習メニューを一新した。ウォーミングアップの後には、組み手の練習を欠かさず行なった。自分よりも重い階級の選手を相手に練習することで組み手の粘り強さが増した。試合を有利に進びやすくなり、元々自信があったパワーを生かせるようになった。

御野場スポーツ少年団、御野場中学校、秋田工業高校では柔道一筋で、何度も全国大会の舞台に立つてきたが、優勝は初めて。「やっと全国のトップクラスで戦える実感と自信を持つことができた」。大会後には、実業団からのオファーも届いたという。

さらに組み手を磨こうと練習に余念がない。夏以降に控える個人戦大会で再び日本一を目指す。部員約150人の柔道部では、軽量級の副主将、寮の副寮長を務める。大学では教職課程の授業を履修。今月下旬から母校・秋田工業高での教育実習が控える。「後輩の前でしっかり授業ができるかどうか、楽しみと不安が半々」とはにかんだ。母校の柔道部の練習に参加することも楽しみにしている。

神奈川県平塚市住。

(伊藤正孝)

©秋田魁新報社